

ＪＡグループ鹿児島が取り組むテーマ

協同の力で創る「農」と「暮らし」の未来 ～原点回帰と新たな挑戦～

わが国にＪＡ（農業協同組合）が誕生して、今年で 65 年を迎えました。

ＪＡは、人と人とのつながりを大切にし、互いに助け合い協力し合うという相互扶助の精神のもとに、社会的・経済的に力の弱い人々が「協同」する力で自らの営農と生活を守るために組織されました。

本県ＪＡグループは、これまでの取り組みにおいて、そうした組合員の願いを確実に実現する一方で、日本の食料基地として、消費者に安心・安全な農畜産物を安定的に提供することで「よりよい社会」を実現するとともに、農業の振興を通じて農村を維持し地域社会を守ることにについても中心的な役割を果たしてきました。

また、市場経済一辺倒の仕組みによる弊害が明らかになるなかで、東日本大震災や 2012 国際協同組合年を契機として、「相互扶助」「絆」といった協同組合の理念・価値観が改めて注目され、その社会的役割が国際的にも見直されています。

こうしたなかであって、今回、本県ＪＡグループは、10 年後にめざす 4 つの将来の姿を提示しました。

これは、農業と地域に根ざしたＪＡとして、これまでＪＡを支えてこられた組合員・地域住民に恩返しをしながら、農業の振興と地域の活性化に取り組むという自らの存在意義を再確認したものです。

未来は自らの意志と行動で創造していく必要があります。

私たちは、原点である「協同」の精神に立ち返り、地域の次の世代に対してＪＡの役割を理解してもらい、結び付きを強めるとともに、時代の変化に即した新たな挑戦を行い、めざす将来の姿の実現（「農」と「暮らし」の明るい未来の創造）に向け、大きく前へ踏み出していきます。